

ただ今、本校所定の課程を修了し、卒業証書を手にした260名の皆さん、本校教職員を代表して、皆さんの卒業を心よりお祝いします。「卒業おめでとうございます。」

本日ここに、ご来賓並びに保護者の皆様のご臨席を賜り、東京都立鷺宮高等学校第75回卒業式を挙げていくことに感謝申し上げるとともに、入学以来、本校の教育に寄せられました皆様の深いご理解と温かいご支援に対しまして、厚く御礼申し上げます。

さて、本日は、鷺宮高校を羽ばたいてゆく卒業生の皆さんに、「時間のちから」「つながり」「聞くこと」についてお話しします。

最近、東畑開人（とうはた かいと）さんが書いた『聞く技術 聞いてもらう技術』という本を読みました。この本の中で東畑さんは「時間のちから」「つながり」について、次のように考えを述べています。

～時間って不思議ですね。

時が経てば経つほど事態が悪化していくときもあれば、時間をかけることで事態が好転していくこともある。その分岐点は、その時間を他者と共有しているか否かです。

孤立しているときには、自分で何とかしようとするから、状況を余計に悪くしちゃいがちです。だけど、きちんと「つながり」があるならば、目に見えにくいかもしれないけれど、小さな配慮が大量になされていきます。

「つながり」があるときの時間の流れは治療的で、「つながり」がないときには破壊的になる。時間を生かすも殺すも、「つながり」次第。～

著者の東畑さんは、臨床心理学の専門家です。カウンセラーとしていろいろな悩みを抱えている人と話をする中で、人間の心は本当に複雑だと思い知らされる一方で、「つながり」をもてるかもてないかというごくごくシンプルなことが、心にとっては決定的に重要であることを痛感する毎日だそうです。

そして、東畑さんはこの本の中で「聞くこと」「聞いてもらうこと」の大切さを訴えています。

～僕らはみんな、自分の人生の当事者です。

人生にはさまざまな困難が起こり、その中には理不尽なこともたくさんあります。僕らは当事者として、自分のことをできるかぎり自分で決められるよう、格闘しています。

そういうときには、誰かに話を「聞いてもらえる」と助かります。それは少なくとも、「つながり」をもたらしてくれます。僕らを孤立から引っ張り出してくれる。すると、僕らに考えるちからが戻ってきます。～

3年前を思い出してください。皆さんは、鷺宮高校に入学する時から新型コロナウイルス感染症との闘いが始まっていました。3年前の4月、高校入試の壁を乗り越え、晴れて鷺宮高生になれたのに、緊急事態宣言下で入学式は中止となりました。外出も制限され、友人とも会えない中、「つながり」をもてずに不安な時間が経過していたことと思います。6月になってようやく登校できるようになりましたが、部活動も制限され、楽しみにしていた高校初の体育祭や文化祭も中止となりました。2年生になってからは少しずつ本来の高校生活を取り戻しつつも、様々な制約の中で学習や部活動、学校行事に取り組んできました。理不尽な環境にもかかわらず、皆さんは鷺宮高校での生活を立派に切り拓いてきました。きっと、ご家族やかけがえのない友人たち、先生方との「つながり」を大切にしてきたからだと思います。家庭でも、クラスや部活動でも、皆さんは誰かの話を「聞くこと」と誰かに話を「聞いてもらうこと」を大切に、これをグルグルと循環させてきたのです。だからこそ、高校3年間という貴重な時間を、生き生きとしたものにしてきたのです。皆さんのこれまでの努力に敬意を表します。

コロナ禍で先が見通せない状況において、「志」を高く掲げ、仲間と「協調」し、「信頼」しながら一步一步前へ歩みを進め、「挑戦」することを諦めなかった皆さんだからこそ、これから困難なことに直面しても、他者との「つながり」と「聞くこと」を大切に、新たな価値を「創造」していくのだと信じています。

結びとなりますが、本日ご臨席賜ったご来賓並びに保護者の皆様をはじめ、学校運営連絡協議会協議委員や地域の皆様など、これまで、本校の教育活動にご協力ご支援いただきましたすべての関係者の皆様に、心から感謝申し上げます。そして、卒業生の皆さんが鷺宮高校を誇りに思い、それぞれの世界で大きく飛躍することを願って、私の式辞といたします。

令和5年3月8日

東京都立鷺宮高等学校長 土方 賢作